

序

ある肝細胞癌の終末期の患者さんを在宅診療で受け持ったときのことで、訪問看護師からこんな連絡がありました。「〇〇さん、徐々に状態が悪化してきていて、ベッドからの起き上がりも難しくなってきました。すぐにクヘン（区変）をかけて、ホーカン（訪看）も医療で入った方がよいでしょうか？」当時の私には何を言っているかさっぱりわかりませんでした。しかし、まだ若手で背伸びしたい気持ちが大きかった私は、知ったかぶりをして「はい、お願いします」と言ってしまったのを覚えています。

多職種連携の重要性があらゆる場面で強調されています。しかし、多職種であるがために、医療者である私たちが知らない業界用語、仕組み、お作法が存在します。福祉・介護の関係者は、医療者が当然それを理解したうえで、連携をしていると考えてしまいがちですが、実は必ずしもそうではありません。そのような隙間を埋めるべく初心者向けの介護・福祉の基本を学んでいただくのが、本書のねらいです。介護認定の仕組みから、介護費用の概要、またさまざまなサービスの内容など、そんなことは今さら恥ずかしくて聞けないというレベルから詳しく解説してあります。また、多職種連携の重要性を理解するためには、それぞれの職種の業務内容や、具体的な多職種連携の方法についても知らなければいけません。それらについても、現場ですぐに活かせる具体的な解説を心がけました。限られた誌面ですので、網羅することはできませんし、また初心者ではない方には少々簡単すぎるとのご批判もあるかもしれません。ぜひ、本書で基礎を学んだ後は、現場に出て学び、他の書物で理解を深めてください。本書が、現場で毎日真面目に患者さんや家族に向き合っている方々の地域へ踏み出す一歩の助けになれば幸いです。最後に、本書発行にあたり、本当に温かい眼で私たちにお付き合いいただいた株式会社羊土社の庄子美紀さま、松島夏苗さまに心から御礼申し上げます。

2016年3月

多摩ファミリークリニック
大橋 博樹